世界を知り尽くした　岡村龍哉

岡村　龍哉の宝石・健康紀行「カンボジア」編（2015）

関西国際空港からベトナム航空で、ベトナムの商都ホーチミンを経由してシェムリアップ国際空港に到着した。いよいよ　カンボジア王国（面積：181,035Km2，人口：約 1514 万人、*首都プノンペン*　は*人口 224 万人*）へ。
国民の 90%以上が、クメール語（カンボジア語）を話し、仏教（上座部仏教）を奉ずるクメール人（カンボジア人）である。

今回滞在するシェムリアップは、シェムリアップ州の州都である。
アンコール・ワット、アンコール・トムなどを含むアンコール遺跡群の観光拠点となっている。
ちなみに、シェムリアップは、世界の tourist と添乗員が選んだ世界 3 位の観光都市だ。（1 位は京都、広島は 13 位・・・）

シェムリアップ一帯は、何世紀もの間、シャム（現在のタイ王国）の領土かその王権の属国であった。***SiemReap*** を直訳すれば『シャム人敗戦の地』である。これは 17 世紀にクメール人がシャムのアユタヤ王朝の軍隊に勝利したことに由来する。

余談だが、タイ王国は、小タイ族による最初の国家とされるスコータイ王朝（1238 年～1350 年）が、*インタラーティット王* によりモン族やアンコール王朝の支配を退け成立した。因果応報だ。
タイ語のアルファベットである**タイ文字**が完成したのは、3 代目 *ラームカムヘーン大王* の時代であると言われている。

カンボジア王国、通称カンボジアは、東南アジアのインドシナ半島南部に位置する立憲君主制国家。国王は*ノロドム・シハモニ*　(2004 年 10 月 14 日～在位中)、**ASEAN 加盟国**（**東南アジア諸国連合**、英語: Association of South - East Asian Nations 東南アジア 10 か国の経済・社会・政治・安全保障・文化に関する地域協力機構。本部はインドネシアのジャカルタに所在）
通貨はリエ、1970 年にカンボジア王国が倒れてから勃発したカンボジア内戦を経て、1993 年に誕生した。

リエ

買い物は、US$で行われるが。お釣りは何故かリエが支払われる・・・

余談だが、**ASEAN 加盟国**は、インドネシア・シンガポール・タイ・フィリピン・マレーシア・ブルネイ・ベトナム・ミャンマー・ラオス・カンボジアの 10 カ国。カンボジアは、1999 年 4 月 30 日に加盟した new face だ。

飲み易いカンボジアビール、名前も CAMBODIA～！

最初にお断りをする。今回の　岡村龍哉の宝石紀行　はヘビーユーザー向けの紀行文になると思うので、気楽に楽しんでほしい！（いつも気楽かもしれないが・・・）

残暑お見舞い申し上げます！

（facebook を見ている人なら分かる筈 → 暑い日本を離れて、もっと暑い GUAM を後に、ベトナムを経由して、もっともっと暑いカンボジアに滞在しています。日本の半分の面積に 1500 万人の民が暮らすカンボジア。Third developing countries で、高度経済成長を目指している　かぼちゃ→カボチャ→カンボジア活気ある国です。あっ、そうそう！今回の世界 3 大仏教遺跡アンコール・ワットへの旅は、この歴史好き！仲良し 3 人組が！！世界遺産を旅しています～！）

ちなみに、日本とカンボジアの時差は－2
つまり、日本が 17：00 の時にカンボジアは 15：00 だ。

宿泊先の　プリンスダンコールホテル＆スパ（5つ☆）はこんな感じ・・・

もっとも、カンボジア入国の際にはvisaが必須だ。E-visaで＄40掛かる。

カンボジアに到着しオートバイの波を感じると、ふと、あの言葉を思い出した。

ホンダの創業者である*本田　宗一郎さん*　は「『**得手に帆をあげて**』生きるのが最上だと信じている」という言葉を残している。「最も得意な分野で働くことが、その人の価値を最大限に発揮できる」という信念を表したものだ。

本田さんは生涯「得手」にこだわり、機会があるごとに若い社員に対して、「一刻も早く自分の得手を発見せよ」と言い続けたそうだ。
確かに、不得手なことは、歳を重ね経験を積むことにより自然と克服できる。
やはり、ビジネスで１流になるためには『**個性**』が必要だ。モニタリング方式の人気取りではなく、スクリーニング方式のトレンドを提案する個性・・・

人生の新たな価値観を提案したいものだ！

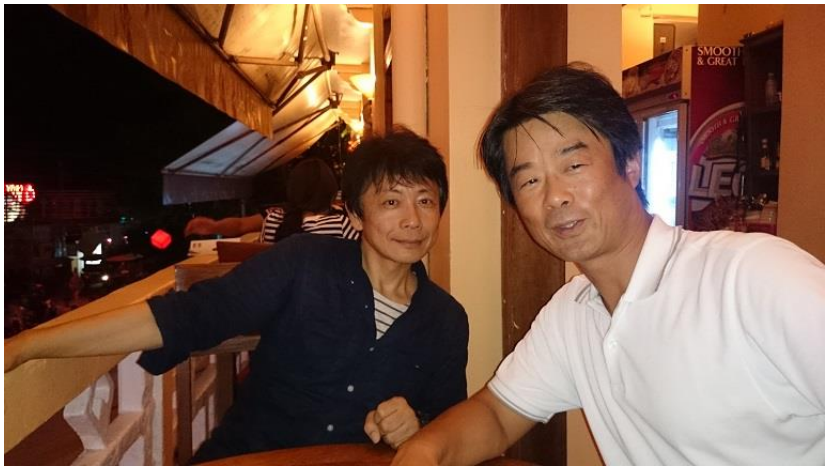
治安はとても良い！（呼び込みは多いが）

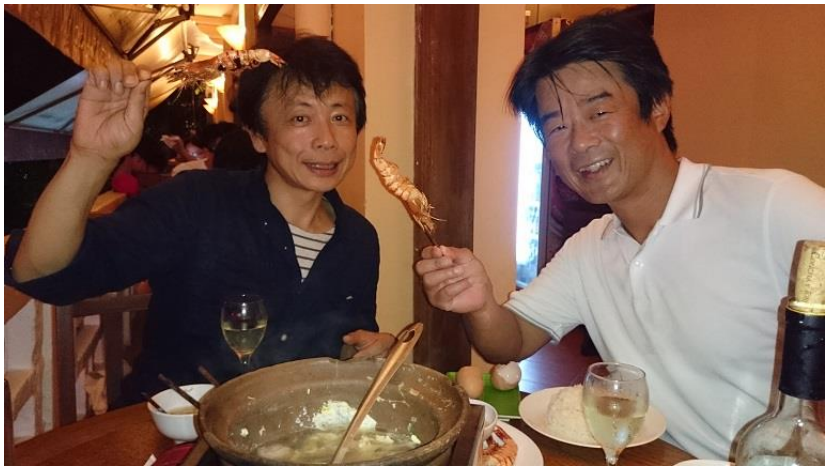
お店の名前がとても気に入った〜！

ワイワイ

ガヤガヤ

仲の良すぎるお二人・・・





もしかして・・・（気を付けよう）

PUB STREET

PUB STREET

SUNRISE
SAUVIGNON BLANC 2013
CHILE
CONCHA Y TORO
ANCHOR

喉が渇いたらコンビニで**コカ・コーラ**（幼少の頃からよく飲んでいたらしい）

カンボジアの位置は複雑だ。南はタイランド湾に面し、西はタイ、北はラオス、東はベトナムと国境を接する。

さあ、アンコール・ワット ＆ アンコール・トム へ

アンコール・ワット: Angkor Wat は、カンボジア北西部に位置するユネスコの世界遺産（文化遺産）だ。アンコール遺跡の１つであり、その遺跡群を代表するヒンドゥー教寺院建築。

サンスクリット語でアンコールは王都、クメール語でワットは寺院を意味する。大伽藍と美しい彫刻を特徴としクメール建築の傑作とされ、カンボジア国旗の中央にも同国の象徴として描かれている。

12 世紀前半、アンコール王朝の*スーリヤヴァルマン２世*　によって、ヒンドゥー教寺院として 30 年を超える歳月を費やし建立された。

1431 年頃にアンコールが放棄されプノンペンに王都が遷ると、一時は忘れ去られるが再発見され、*アンチェン１世*　は 1546 年から 1564 年の間に未完成であった第一回廊北面とその付近に彫刻を施した。
孫のソター王は仏教寺院へと改修し、本堂に安置されていたヴィシュヌ神を四体の仏像に置き換えた。

あっそうそう！？

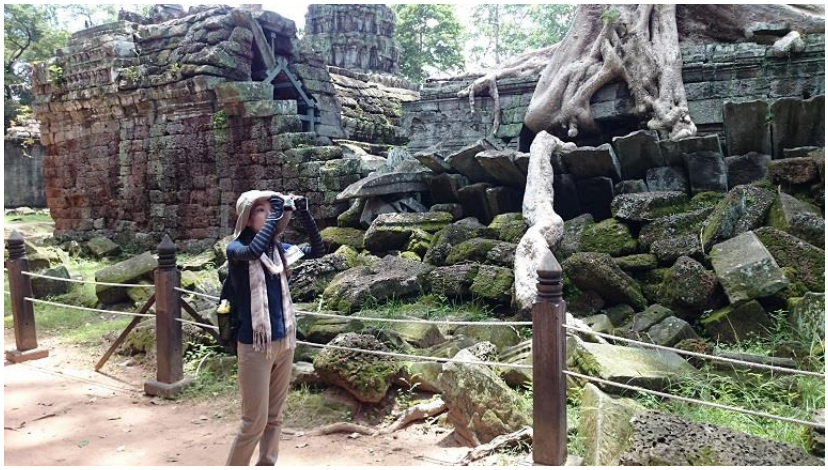
世界を知り尽くした　Jewelry Okamura 岡村　龍哉の宝石紀行「グアム」編（2015）でチャイナリスクを述べたが、見事的中した。(的中しない方が良かったが・・・)
『国際金融のトリレンマ』というものがある。国際金融において「独立した金融政策」「自由な資本移動」「安定した為替相場」の 3 つを同時に実現することはできないという説である。最高 2 つまでの実現しかできない。

転じて、「夢の実現」「利益の最大化」「幸せな家庭」は人生のトリレンマか？

話しを戻して、アンコール・ワットは**世界三大仏教遺跡**（ミャンマーのバカン遺跡、カンボジアのアンコール・ワット、インドネシアのボルブドール）の 1 つとされるが、元々はヒンドゥー教の寺院だ・・・

Giraffe に見えるのだが・・・
（賛同は得られなかった）

余談だが、オフィスで働いているスタッフの一番の悩みの種、それはトイレ（本来はレストルームと呼ぶが）だ。音消しのために水を流したり昼食後の混雑時を避けたり、同僚があまり知らないトイレを使ったりと苦労する。
職場でトイレを使う時の苦労話はよく聞くが、最もよくある不満はプライバシーの欠如だ。



アメリカでは、有名タレントが陪審員を務めた時、トイレに行くときは音が聞こえないように仲間の陪審員に歌を唄ってもらったという話がある。（そこまでするか・・・）
ドアや仕切りの下に隙間があるのも問題だ。ドアの下から靴が見えてトイレにいるのが誰か分かってしまったら嫌だなどと考える。とにかく、同僚や上司がまわりにいる場所でトイレを使うのでどうしても気を遣う。

職場のトイレを改善できないか考えてみよう！

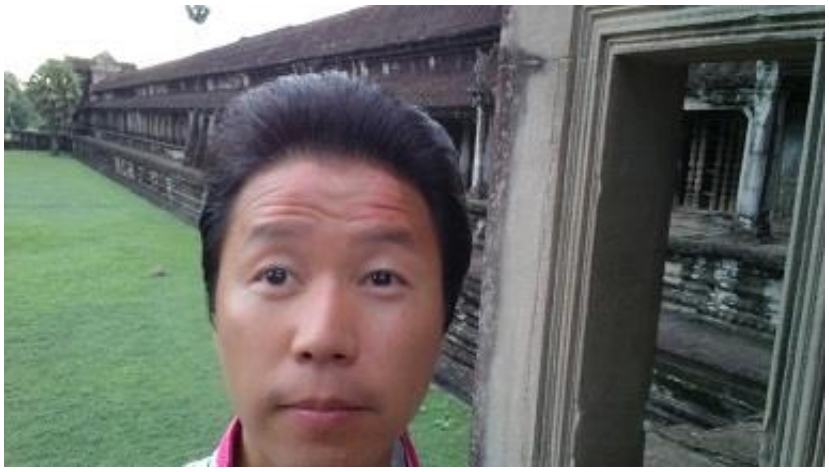
薄い壁で仕切られた個室が長屋のように並ぶのではなく、化粧室１カ所にトイレの個室が１つしかなければ、いろいろと気詰まりな状況を回避できる。
しかし、現実には難しい。米労働安全衛生庁（OHSA）の基準では例えば、従業員 110 人以上のオフィスには個室が６つ以上と定められている。大きな企業で個室１つだけの化粧室を完備するとなれば、１フロア全部をトイレ階にしなければならないかもしれない。
下の隙間をなくす方はどうだろうか。残念ながらこれも難しい。
OHSA 規則は職場のトイレが清潔で乾燥していることを求め、モップがドアや仕切りの下を通れるようにしなければならないと定めている。
個人でできることとしては、便器の中にあらかじめペーパーを敷き詰める、ハンドドライヤーを作動させて音を聞こえなくしてしまうなどなど・・・
（カンボジアのトイレ事情は深刻だ。もちろん、紙は流せない。国民の 68%がトイレを使わずに済ませてしまう・・・地方では全く整備されていない）

像のテラス（所謂、凱旋門）

最近、しばしば企業経営者から人を中心とした《組織作り》について相談を受ける。基本的に人が 2 人以上集まれば集団となり、コンセプトの成就やコンフリクトの解決などを達成するために‘組織’が編成される。優れた組織には、１．共通の目的　２．コミュニケーション　３．貢献意欲　の整備が必要なことはよく知られているが、左手の薬指の役割のリーダーは、‘組織の連結ピン’として、迅速・丁寧・確実な職務遂行にスタッフが取り組めるように management

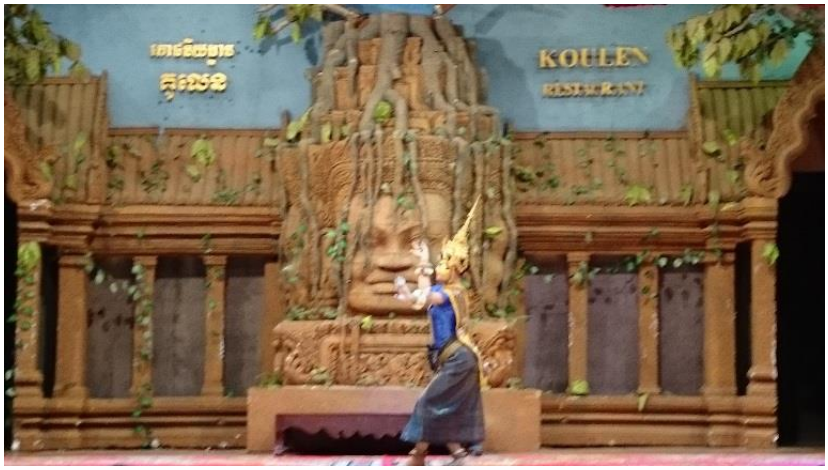
マネージメント（上手に遣り繰り）することだ。

control コントロール（規範のみの統制）ではない。**ピラミッド型**か**フラット型**などの組織形態は問題ではない。組織形態は、過去を研究し、現在を分析し、未来を予測して、時代に適応しながら改変すれば良い。連結ピンは、人の適材適所を考えるだけではなく、最適な仕事を創造することが今の時代は必要だ。現代社会は、ドッグイヤー（犬の 1 年は人の 7 年に相当することから時間経過の速さを表現する例え）だ。旧態依然の考えと行動は、「ゆで蛙理論」の悲劇を証明するだろう。蛙は、熱湯に入れられると飛び跳ねて逃げ出すが、常温から徐々に温度を上げて熱湯になれば熱さに慣れ、逃げ出さずに、やがてゆでがえり死を迎える。変わりたくなければ変わり続けなければならないのだ。



Sunset は奇麗だな～

夜はカンボジアの伝統舞踏を鑑賞～！

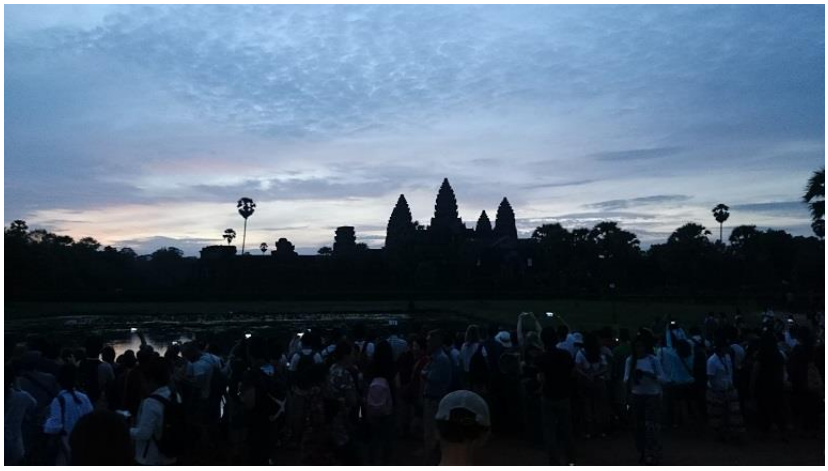


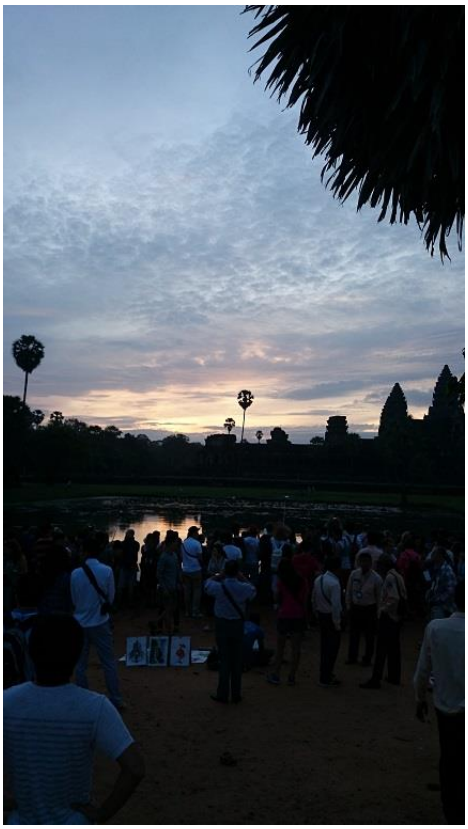
疲れを癒すのには競泳～！

TATSUYA OKAMURA

早起きして、Sunrise鑑賞～！

ギャラリーが増えてきた・・・





何故かお祭り騒ぎ！？

そうか～次回は気球から眺めよう！！！

行商も稼ぎ時

さてと、一汗・・・

再び、アンコール・ワット へ〜！

アンコール・ワットは、主に砂岩とラテライトで築かれ、西を正門と定め。寺院は付近の製鉄技術を活用している。
境内は外周、東西 1,500 メートル、南北 1,300 メートル、幅 190 メートルの濠で囲まれている。 神聖な場所を飾るため、回廊は精緻な薄浮き彫り（カメオ）で埋め尽くされている。

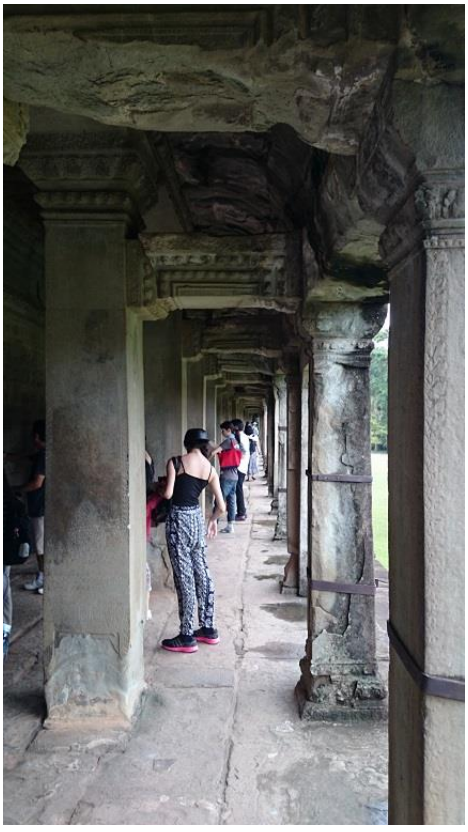
額縁にして・・・

見上げると（ふ～～～）

ガイドの *Tony*

フムふむ・・・

回廊を抜けると



神聖な空間

見下ろすと（別世界！）

世界を知り尽くした　岡村龍哉

岡村　龍哉の宝石・健康紀行「カンボジア」編（2015）

カンボジアの京料理！？

個人的には、バックヤードから見たアンコール・ワットが岡村龍哉はお気に入りだ！そこはかとなく、味わいがあり、ジ~ンと感動が自然に込み上がってくる。

しかし、世界遺産の場所にこの露店・・・

疲れを癒すには**カンボジア式マッサージ**

アンコール・トム　へ

アンコール・トム（Angkor Thom）は、アンコール遺跡の１つでアンコール・ワット寺院の北に位置する城砦都市遺跡。12 世紀後半、*ジャヤーヴァルマン７世*により建設された。

青い大きな空に向かって真っ直ぐに伸びる木～！
こうありたい・・・

フムふむ・・・

アンコールは、サンスクリット語のナガラ（都市）からでた言葉。またトムは、クメール語で『大きい』という意味。

アンコール・トムは一辺 3km の堀と、ラテライトで作られた 8m の高さの城壁で囲まれている。外部とは南大門、北大門、西大門、死者の門、勝利の門の 5 つの城門で繋がっている。

各城門は塔になっていて、東西南北の四面に観世音菩薩の彫刻が施されている。また門から堀を結ぶ橋の欄干には乳海攪拌を模したナーガになっている。また、このナーガを引っ張るアスラ（阿修羅）と神々の像がある。

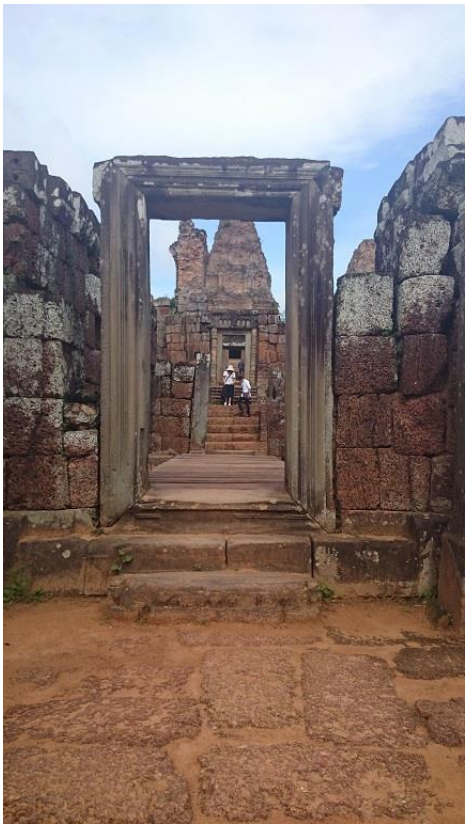
Shall we dance ？

小さな命

SiemReap 周辺にも貴重な遺跡群が存在する！

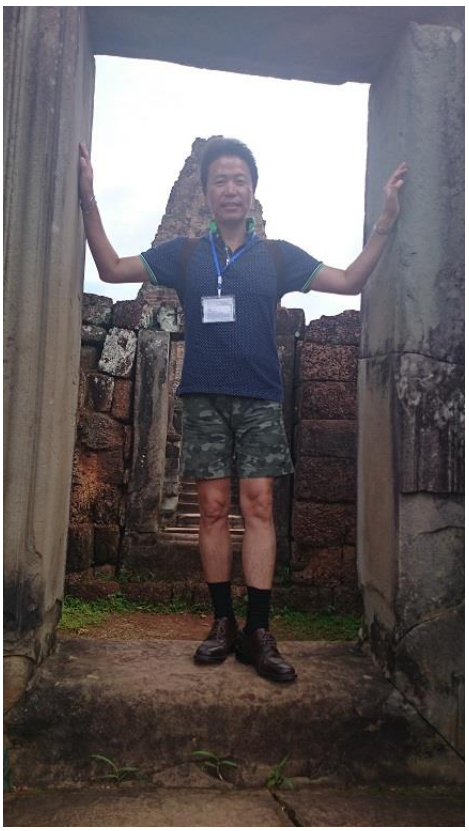
いつも子供に囲まれ「**買って下さい～！**」と頼まれる*奥村*・・・
（人柄の良さが伝わるのだろう）

この遺跡の名前は失念した・・・



この象の像は存在感があった！

英雄の本能で乗ろうとしたら*井上*に強く止められた・・・



デコボコ道に揺られながら、少し足を延ばそう～

何処の国でも芸術家は存在する・・・

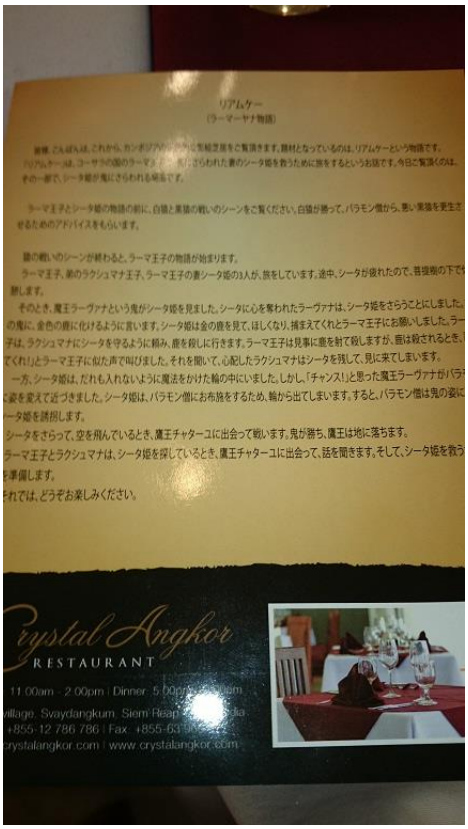
芸術家の優劣の判断は難しい。やはり、original かな？

また額の日焼けが酷くなりそう・・・

今夜はクールダウンの為にも**影絵**を楽しもう～！

影絵（かげえ）は、紙や木で作られた人形、または動物などに見立てた手など体の一部の後方から光を当てて、その影をスクリーンに投影したもの。また、それによって演じられる芝居。

ちなみに、影絵は多くの国で親しまれており、世界では 20 以上の国々に影絵芝居の劇団がある。



カンボジアでは、特に西部で影絵芝居が行われている。大型の人形を使う影絵芝居をスバエク・トムと呼ぶ。
スバエク・トムはタイのナン・ヤイに似ている。かつて大きな仏教行事、とりわけ高僧の火葬儀礼に七日間から時には二週間もかけて夜ごと明け方まで連続上演をしたと伝えられている。シェムリアップ州が発祥地だとされる。

小型の手足の動かせる人形を使う影絵芝居をスバエク・トーイと言う。

しかし、今回の旅ではよく歩きました～

誤解を恐れず大胆に申し上げると、半年分の運動はしたな～～

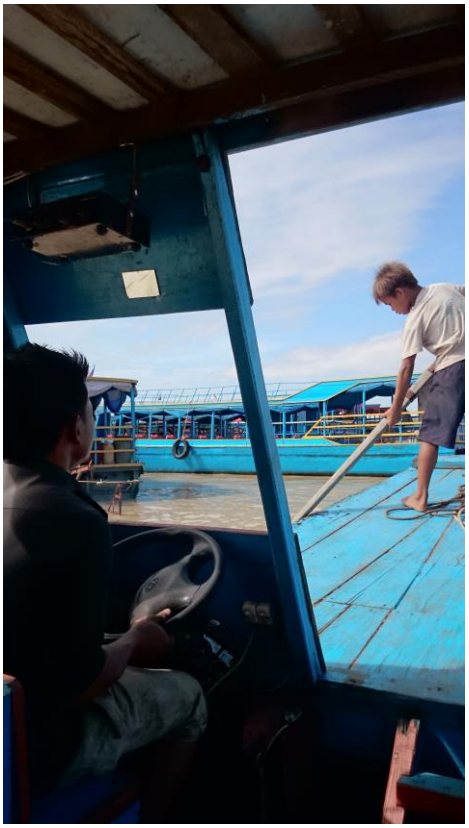
10 代の頃の運動（筋肉）の貯金で今まで過ごしてきたが、そろそろ使い果たしそうだ・・・

*矢沢永吉*さんの**黒く塗りつぶせ**に乗って～！！！

Highway では未だこの曲を繰り返し聞いている・・・

しばらくご一緒に Cruising を楽しみましょう～！

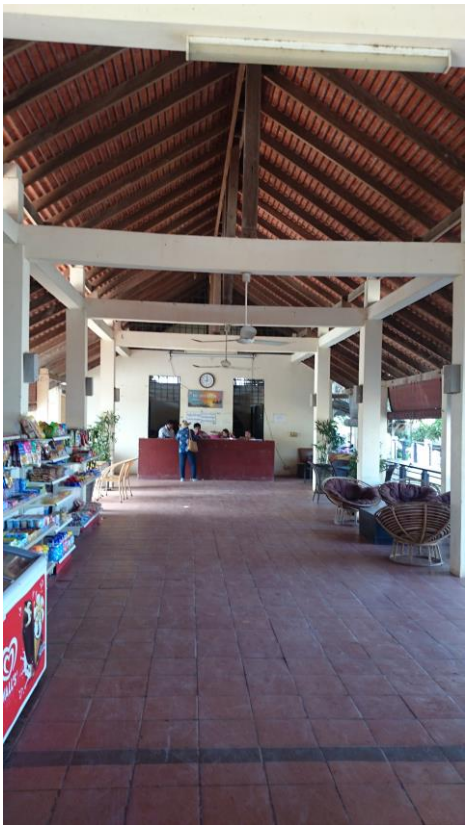
学校に行かず親の手伝いをする少年。
発展途上国の現実だ。



カンボジアにはあまりチップの習慣はないが、子供にチップを渡すと大喜び！
こそ～とポケットに・・・

私も年齢を重ね、チップを渡しても違和感のない年齢と風貌になったな～

珍しいワニ料理（カンボジアの名物料理）



アンコール国立博物館

入場は＄12 でアンコール王朝の歴史を、大型スクリーンや音響・照明を駆使して分かりやすく紹介する博物館。
展示室は「千体仏の間」「宗教と信仰」「アンコール・ワット」など８つに分かれ、クメール王国の成り立ちや王朝発展に貢献した４人の王について、また当時の宗教についてなど詳しく学べる。
貴重な石造彫刻やリンテルレリーフ・石碑文など展示品も見応え十分。
できれば遺跡訪問前に訪れたい。

市内を観光するにはツクツクが最適

パートナー募集中！？

カンボジア風すき焼きは何度食べても GOOD～！

旅の終わりに～！

男 3 人旅、予想以上に楽しんで本当に満喫しました！
カンボジアの遺跡群はなかなか見応えがあり、かなりインスパイアされました。
2 人に感謝・感謝・感謝です！！！

井上と奥村はもちろん、次々に登場してきた旅のご縁の member にも恵まれ、とても快適に過ごすことが出来、時の経過が南海ラピッドでした。

また機会があればと思います・・・

『カンボジアの旅』～人物編：主人公に躍り出た奥村バージョン～

俺の選んだ Best shot（奥村編）は、この 3 枚の写真

① *Tony* に注意されている奥村・・・

② *Tony* に恫喝されている奥村・・・

③ 風の中満面の笑みの奥村と井上・・

です。

『カンボジアの旅』～人物編：いつも笑顔の人気者井上バージョン～

友の大切さ、友情の意味、親友の有難さをいつも笑顔で教えてくれる人気者、井上。他人への気遣い、快適な輪の創造、人生のバランスを教えてくれる奥村・・・

俺の選んだ Best shot（井上編）は、この 3 枚の写真

① スケールの大きい世界が似合うラガーマン井上・・・

② 輪の中心が似合ういつも笑顔の井上・・・

③ 岡村旅 1 の写真を邪魔する井上・・・

です。

岡村の Best shot はこの１枚

アンコール・ワットの夕日を川辺で友と眺めていた時の１枚

*玉置浩二*さんのメロディーが自然に流れてきて涙を堪えた・・・

あんなにも好きだった　きみがいたこの町に　いまもまだ大好きな
あの歌は聞こえてるよ　いつもやさしくて　少しさみしくて

あの頃はなにもなくて　それだって楽しくやったよ　メロディー泣きながら
ぼくたちは幸せを見つめてたよ

なつかしいこの店の　すみっこに置いてある　寄せ書きのはじのほう
きみと書いたピースマーク　みんな集まって　泣いて　歌ってたね

あの頃はなにもなくて　それだって楽しくやったよ　メロディーいつのまに
大切なものなくした

あの頃はなにもなくて　それだって楽しくやったよ　メロディー泣きながら
遠い空　流されても

きみのこと忘れないよ　いつだって楽しくやったよ　メロディー泣かないで
あの歌は心から聞こえてるよ

最後まで読んで頂いた　岡村龍哉の宝石紀行　のヘビーユーザーへの感謝に演奏を・・・